



中学校・国語科 授業実践アイディア例（B書くこと 推敲編）

「私の推し本、紹介します！」

～読んでみたい！を引き出す紹介文をつくろう～



COMPASS
の指し示す先へ

←感想はこちらから

相互添削で終わってしまう…

B書くこと(推敲)の指導で、
このように感じたことは
ありませんか。

生徒が自分で書いた文章の
課題に気づけない…

「いいと思います(感想)」
ばかりで深まらない…

「誤字脱字」しか
見ていない！？

間違いを直す時間に
なってしまう…

推敲の視点をいつも教師が与えている

時間だけかかって
効果が見えづらい…



どのような工夫をしたら、「推敲」の学習がより効果的になるのでしょうか。

推敲とは、読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整えることを示しています。

今回は、授業づくりのポイント2点を意識して考えてみましょう。

- 生徒が推敲の意図を理解し、自ら学習を調整できるような場面を設定する。
- 生徒が主体的に課題を見つけ、必要な推敲を選択できるような活動を設計する。

「推し本」について紹介文を書く活動を通して、「読み手にどう伝わるか」「どのようにすればより伝わる文章になるか」を考えながら、生徒自身が推敲の視点を見だし、改善していくことを目指す学習活動を紹介します。

見いだす (第1時)

見いだす

疑問をもつ

既習の内容や方法を振り返る

課題を明確にする

○教師が用意した3つの紹介文を比較する。

a:表現の工夫はあるが、内容が抽象的な文章

b:具体的なエピソードがあり、表現も工夫された文章

c:具体的なエピソードが弱く、表現の工夫に乏しい文章

○「なぜそう感じたのか」を具体化しながら、推敲の視点を見いだす。

bが一番読みたいと感じるぞ。

どうしてそう感
じたのでしょうか。

魅力を伝える
表現に違いが
あるからだ！

具体的な
エピソードの有無も
大事だぞ！

- 「どこがよいか、悪いか」ではなく、「読み手としてどう感じたか」を考えさせる。
- 読み手としての気づきを、推敲の視点へつなげさせる。

指導のポイント



自分で取り組む (第2時・第3時)

自分で 取り組む

解決の見通しをもつ
情報を収集し調べる
自分の考えを形成する
思いや考えを基に創造する

(第2時)

- 紹介する本を決める。
- 読み手を具体的に設定して構想を練る。
- 「推し本」についての紹介文、初稿を書く。(150～200字)
- 「読みたい」を引き出すイチ押しポイントを決める。

(第3時)

- 初稿を読み返す。
- 自分なりの気になる部分(課題)を見つける。
(推敲シート①を活用する)

- 誰に何を伝えることで「読みたい！」を引き出すのか明確にする。
- 自身の紹介文を「読み手の視点」で見直し、課題を見つける。

指導のポイント

読み手に一番伝えたいことは伝わりそうですか？

結末は書きたくないけど、内容がうまく伝わるか心配…

広げ深める (第4時)

新たな考えに気付く
友達と互いに学び合う
自分の考えを伝える

広げ 深める

「推敲シート①②」の例は
こちらのリンクから！



(第4時)

- 3人グループで読み合う。
- 読み手の反応や意見を踏まえ、初稿を推敲する。
(推敲シート②を活用する)



読みたいを引き出せるように、登場人物を紹介する箇所の表現を工夫しました。どう思いますか？



(Aさんの反応)
押しポイントに対して、主人公についてもっと知りたいと思いました。



(Bさんの反応)
面白さを伝えたいことは分かったけれど、具体的にどう面白いのかが分かりづらいと思いました。

- 読み手の反応を、推敲の根拠とする。
- 「言われたまま直す」のではなく、「なぜ直すか」「どう直せば伝えたいことが伝わるか」を考える。
- 前時で見つけた課題を踏まえ推敲するように助言する。

指導のポイント

主人公についてもっと知りたいのか…
最初の書き出しで、主人公について説明しよう！
具体的なエピソードは入れすぎないようにしたいから、「面白い」以外の表現を使ってみよう！

まとめあげる (第5時)

新たな疑問をもつ
学んだことを確実に身に付ける
学んだことをまとめる
思考の過程を振り返る

まとめ あげる

(第5時)

- 紹介文を完成させ、交流を行う。
- 振り返りを行う。
→推敲を行った理由とその効果について言語化する。

振り返り項目(例)

- ①一番伝えたかったこと
- ②読み手の反応を受けて推敲した箇所
- ③修正内容とその理由
- ④推敲・修正をしたことで、どのような文章になったか
- ⑤次に書くときに生かしたいこと

- 推敲の目的や効果を言語化する。
- 推敲の視点の確認や、修正前後の比較により、推敲の過程を振り返る。

指導のポイント

「何を、なぜ、どのように」
推敲したのかを言語化する
ことにより、指導と評価が
自然につながります。

推敲の指導では、文章の完成度だけでなく、「読み手を意識して自分が書いた文章を見直す過程」そのものを見取る工夫をすることが大切です。